

♪ 2023年度 *poco a poco* ♪

Nr. 21 2024年1月25日(木)

文責:プファイル・辰巳

Fünfte Jahreszeit...

1月6日の「Heilige drei Könige」を最後に、クリスマスの飾りが片付けられ、その後、雪に閉ざされた週もあり、冬の厳しさ・暗さを一段と感じる2024年の1月です。その1月も間もなく終わり、2月にはファッシング(カーニバル)がやってきます。

Karneval, Fastnacht, Fasching, そして Fünfte Jahreszeit...と呼び方はいろいろありますが、日本語で言えば「謝肉祭」となります。復活祭の前の40日間は Fastenzeit (断食期間) になり、現在でもその期間は、みんながみんなというわけではありませんが、「お肉を食べない」「お酒は飲まない」「甘いものを食べない」など、健康面からも良いと考えて、自分なりの断食期間にする人が、身近なところにもいらっしゃいます。その Fastenzeit に入る前に、少し羽目を外して、しっかりお肉を食べたり、お酒を飲んだり、楽しく過ごすのがカーニバルの始まりだそうです。

世界中に広がったカーニバルの祝い方はいろいろですね。リオのカーニバルに代表されるラテン・アメリカの華やかなカーニバル。仮面舞踏会のようなベネチアのカーニバル。ドイツでは仮装行列が繰り出し、行列に参加する人も、観客も仮装して、賑やかな音楽の中、「Helau!」という掛け声がかかりますね。所説ありますし、地方によ

って掛け声が違ったりもしますが、意味合いは日本の「鬼は外!」に近いようです。

鬼や悪霊を追い出し、春の到来を待ち遠しく思う気持ちは、日本もドイツも似ているのかも知れませんね。



音楽こぼれ話 < Clara Schumann Haus >

フランクフルトに所縁の深い作曲家のお話、最終回はクララ・シューマンについてです。モーツァルト、フンパーディング、ヒンデミット、テレマンと紹介してきましたが、この5人の中では、モーツァルトに次いでよく知られているのがクララ・シューマンではないでしょうか。

クララ・シューマンは作曲家ロベルト・シューマンの妻であり、著名なピアニスト、そして自らも作曲を手掛けた作曲家でもありました。ロベルト・シューマンは精神を病み、40代半ばで早世しましたが、クララは夫を亡くした後も子どもたちを養育し、演奏活動を続けました。引っ越しを繰り返した後、1878年、59歳の時フランクフルトに引っ越してきました。それから1896年に亡くなるまでの最晩年を過ごしたのが、フランクフルトということになります。



クララ・シューマンが住んでいた家は、ウエストエンド地区、パルメンガルテン近くの Myliusstraße 32 番地にあります。現在はプライベートハウスですので、見学はできませんが、家の外壁にクララ・シューマンが住んでいたことを記した記念碑が付けられています。ここでクララはハウスコンサートを開き、ヨハネス・ブラームスやヨーゼフ・ヨアヒムといった著名な音楽家たちが、出入りしていました。

クララ・シューマンはこの自宅で後進のためのピアノ・レッスンもしていましたが、さらに現在まで続いている Dr.Hoch's コンザヴァトリウム(Conzervatorium)の創立にも、深く関わりました。このコンザヴァトリウムでは、第2話で紹介したフンパーディングも講師を務めていました。現在、コンザヴァトリウムはフランクフルト市内のオストエンドにありますが、構内の2つのコンサートホールには、クララ・シューマンとフンパーディングの名前が付けられています。

先述の通り、クララ・シューマンは1896年に76歳で亡くなるまでフランクフルトに住んでいましたが、亡くなった後は、彼女の生前の希望通り、ボン(旧墓地)に眠る夫ロベルト・シューマンの傍らに葬られたということです。



Grabstätte von Robert und Clara Schumann auf dem Alten Friedhof in Bonn →